

新収蔵資料約300点を中心に、ミニチュアの魅力と収集家たちの熱意について紹介

新収蔵ミニチュア展 名人小林礫斎を支えた二人の中田

たばこと塩の博物館（東京・墨田区）で

2026年9月26日（土）～12月20日（日）開催

たばこと塩の博物館では、2026年9月26日（土）から12月20日（日）まで、「新収蔵ミニチュア展 名人小林礫斎を支えた二人の中田」を開催します。

小林礫斎（1884-1959）は、木工や牙彫^{げぼり}を得意とする職人で、たばこ盆などの指物や、和装の装身具^{さしもの}であった袋物の部材作りを生業としていました。日本人の生活が変化し、和装から洋装へと移り変わっていく時代にあって、本来の仕事は減っていきましたが、礫斎は持っている技術をミニチュア制作に転用し、稀代の名人となります。彼の精巧な作品は、袋物商などを介して知られていき、多くの顧客を得ます。顧客のなかには、古美術商の中田藤之助と、茶人の家に生まれ切手収集でも名を馳せた中田實の二人の中田がいました。

箱根の富士屋ホテル近くで古美術商を営んでいた中田藤之助は、昭和の初めに閉店し、ミニチュアの収集に乗り出しました。その作品群は既存の骨董品と、礫斎ら一流の職人への新たな依頼品からなり、極小の茶道具や印籠、人形など逸品ばかりです。このたび、その一部のおよそ300点が当館の収蔵品に加わりました。

そして、もう一人の中田こと中田實も礫斎の良き理解者でした。礫斎に様々なミニチュア制作を依頼し「中田實コレクション」を築きました。当館ではこのコレクションをご寄贈いただき、これまで度々展覧会を開催してきました。

本展は4章で構成し、約300点のミニチュアと関連資料を一堂に展示します。当館に新たに加わった藤之助によるコレクションを中心に、實のコレクションとの関係も交えて紹介します。ミニチュアの持つ魅力とともに、収集にかけた「二人の中田」の熱意もお伝えします。



Photo_01 長板揃物

長板：4.64×9.84×0.27cm

* 資料のサイズは、縦×横×高さ(厚み)の順で記載

展覧会の構成と展示内容は別紙参照**開催概要**

名 称：新収蔵ミニチュア展 名人小林礫斎を支えた二人の中田

ヨ ミ：シンシュウゾウミニチュアテン メイジンコバヤシレキサイヲササエタフタリノナカダ

会 期：2026年9月26日（土）～12月20日（日）

主 催：たばこと塩の博物館

会 場：たばこと塩の博物館 2階特別展示室

所在地：東京都墨田区横川 1-16-3（とうきょうスカイツリー駅から徒歩10分）

電 話：03-3622-8801 / F A X：03-3622-8807 / U R L <https://www.tabashio.jp>

入館料：大人・大学生：300円 / 小・中・高校生、満65歳以上の方：100円

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日（ただし、10月12日、11月23日は開館）、

10月13日（火）、11月24日（火）

※やむをえず開館時間や休館日を変更する場合があります。最新の開館情報は、公式X (@tabashio_museum) かお電話でご確認ください。

お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：褒地（ほろち）由美子

E-mail：horochi@tsmuseum.jp

I. 箱根の中田

中田藤之助は、兄の松五郎と、明治19年(1886)に箱根の富士屋ホテル前に古美術の店舗を構えました。中田兄弟商会と称して松五郎が代表を務めた同店は、古美術および陶磁器の名店として知られました。その後、藤之助が代表を継ぎましたが、昭和3年(1928)には閉店することとなり、所蔵品の売立を行いました。この時の売立目録には、仏像や甲冑、葵紋のある調度品などから印籠のような小型のものまで全960点が掲載され、扱っていた品の多彩さが伝わります。

この章では、中田兄弟商会の店舗写真や売立目録などを通して、中田藤之助の商いのようすを紹介します。売立目録に掲載され、現在は当館が収蔵しているたばこ盆なども展示します。



Photo_02

中田兄弟商会店舗外観



Photo_03 葵散し螺鈿蒔絵たばこ盆

16.9×31.5×25.6cm

売立目録には「一七一 紫檀葵蒔繪莚盆 銀牡丹彫煙管付」として載っている。
昭和初期に大蔵省専売局により収集され、現在は当館の収蔵品となっている。



Photo_04

売立目録『もくろく』(中田家所蔵品入札)
東京美術倶楽部 昭和3年(1928)

中田兄弟商会閉店後に行われた売立の目録。

II. 中松庵藤翁コレクション

中田藤之助は、昭和3年(1928)の古美術商引退後に、ミニチュアの「蒐集」と「作製」を思い立ったといい、コレクションの一部にある昭和8年や9年の表記が、職人たちに制作を依頼した時期を知る数少ない手がかりとなっています。藤之助の収集品「中松庵藤翁コレクション」は、小林礫斎を中心とする一流の職人たちへの依頼品や、藤之助が集めた小さな骨董品に、新たに専用の箱を誂えたものなどからなります。収集品の展覧を考えていた藤之助ですが、叶うことなく昭和12年に他界したため、コレクションの全貌は昭和15年に跡継ぎの中田恭義がまとめた『中松庵藤翁蒐集並鑑製 織巧美術品目録』によって世に知られることとなりました。今回、新たに収蔵されたコレクションは、同目録に収められたものの一部です。

この章では、藤之助が収集した骨董品と、当時一流の職人たちに制作を依頼したミニチュアを紹介します。



Photo_05

『中松庵藤翁蒐集並鑑製 織巧美術品目録』

藤之助の跡継ぎである中田恭義が昭和15年(1940)に刊行した。作品目録と写真ページからなり、モノクロを中心に一部はカラーで掲載した豪華な一冊。関係職人の一覧も掲載されており、礫斎は象牙小細工師として載っている。



Photo_01 長板揃物

長板: 4.64 × 9.84 × 0.27cm

屏風や柄杓、茶筌などは礫斎作。



Photo_06 道具箱

外箱の蓋: 14 × 11.6cm

「長板揃物」の各道具を収める専用の箱を礫斎らに作らせたもの。



Photo_07

掛花生 銘 空蟬

本体: φ 1.03 × 2.25cm

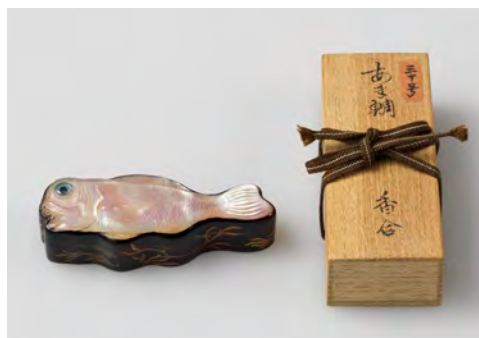


Photo_08 甘鯛香合

2.31 × 6.46 × 1.5cm

骨董の香合と専用にあつらえた箱。



Photo_09 植木棚

3.88 × 11.48 × 13.3cm

紀州徳川家伝来



Photo_10

唐木提箆筒

1.37 × 1.5 × 1.27cm

作: 矩曲

金具: 村上定吉



※前蓋を外し、引出しを開けたようす。



Photo_11

小倉山蒔絵硯箱

5.3 × 4.2 × 1.33cm

蒔絵: 今泉成之

水滴: 村上定吉

彫金: 小林盛良



Photo_12 人形
後列右端の人形:5.7×5.74cm
藤之助のコレクションは三折れ人形などの骨董の人形も多い。

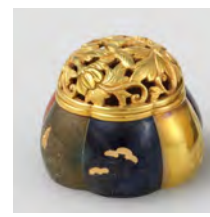
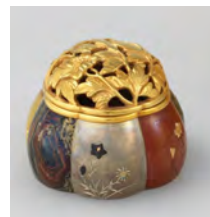


Photo_13 ^{あこだ} 交り金阿古陀香炉
φ2.3×1.77cm
作:村上定吉
彫:小林盛良

※裏



Photo_14
印籠
左端の印籠:2.52×2.16cm
左端は森田藻己作。



※専用の重箱に収められた印籠で、一段に4点、5段2箱に収められ、計40点からなる。



Photo_15
机硯箱揃
机:1.72×3.61×1.28cm
硯箱:1.36×0.86×0.32cm
作:小林礫斎
蒔絵:今泉成之



Photo_16 瀬戸物揃
箱:22.9×34.7cm 紀州徳川家伝来



Photo_17 切子揃
箱:17.8×34.7cm 紀州徳川家伝来

Ⅲ. もう一人の中田 中田實とその周辺

礫斎の良き理解者であり、藤之助とともに主要な依頼主であった中田實(1877-1946)。彼の父は、裏千家の高名な茶人・二代中田宗閑で、藤之助とは血縁はないものの系図上では従兄弟にあたります。

實は小学生の頃から切手収集を趣味としており、その大家として知られていました。昭和初期からミニチュアを集めはじめ、次第に自作したり、礫斎ら一流の職人たちに制作を依頼したりするようになったといいます。藤之助と實は同時期に礫斎のミニチュアに熱中しますが、その収集方針は異なります。ミニチュアの収集にあたって、既存の骨董品でも依頼品でも、藤之助は工芸品に重きを置いたようで、一方の實は、「最小」を求めました。

平成2年(1990)、当館では中田實コレクションを借用して、「小林礫斎とその世界 ～mm単位の繊巧美術～」展を開催しました。その後、ご遺族のご厚意によりこのコレクションを寄贈いただき、展覧会を重ねてきました。

本章では、絵画や写真などの記録から、實の家族や職人たちとの交流、藤之助コレクションとの関係といった周辺事情を中心に紹介、合わせて中田實コレクションの一部を展示します。



Photo_18

山内容堂画 閑翁図

個人蔵

閑翁とは實の祖父で茶人の初代中田宗閑(1793-1871)のこと。

土佐藩主の山内容堂(1827-1872)は閑翁の門弟として知られていた。



Photo_19

切手コレクション

實の原点である切手のコレクションも、他のミニチュアと同様に箱などをあつらえて保管されている。



Photo_21

象牙筆筒

左の筆筒: 0.84 × 0.55 × 0.75cm

作: 小林礫斎

彫刻: 浅野墨谷

左の筆筒の引出しには折本、右の筆筒の引出しには独楽などが入っている。

Photo_20

嵯峨人形

ケース: 1.83 × 2.43 × 2.93cm

實自慢の嵯峨人形。ケースは礫斎に依頼して専用にあつらえたもの。



Photo_22

つとひ

2.53 × 6.23cm

實コレクションの制作に携わった職人たちの一覽で、象牙製の本体に各人の作品が画帖風に収められている。「拵へ 小林礫斎」とあるように、礫斎は全体を取りまとめている。

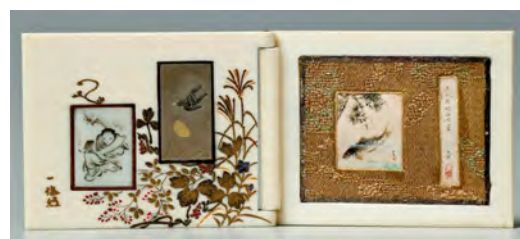


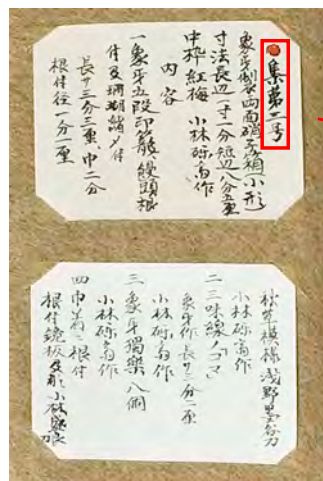


Photo_23

「集第三号」

箱: 2.57 × 3.37 cm

象牙三折人形、三味線駒、印籠、独楽
作: 小林礫斎
巾着は實作。



※「集第三号」について記されている。

【目録の内容】

「集第三号」とあるように、實は、箱ごとに命名し、箱自体および収納された内容について記した。

目録の項立も細かく、情報は筆で記している。



Photo_24

實の目録

實はコレクションを小箱に分け、箱ごとに目録を編んでいたが、コレクション自体が膨大な上に、實の几帳面さを反映して目録も細かく、未完のままとなった。

IV. ミニチュアが呼んだミニチュア

当館では平成2年(1990)以来、過去5回にわたってミニチュア関連の展覧会を開催してきました。開催の度に寄せられる関連情報によって、当館のミニチュアコレクションはさらに充実したものとなっています。

本章では、ごく一部ながら、近年になって様々な方からのご寄贈やご紹介により当館収蔵品となったミニチュアを紹介します。



Photo_25

籠売り

高さ(大)5.5cm

高さ(小)5.4cm

目の粗いものから詰まったものまで、多様な籠などを編み上げ、さらに竹製の軸に取り付けている。無銘ながら、手の込んだ丁寧な作り。



Photo_26

銀更紗たばこ入れ

袋: 2.76 × 4.54 × 1.76cm

筒: 胡麻竹 緒締: 珊瑚 前金具: 硯に墨

実用のたばこ入れでも希少とされた銀更紗だが、ミニチュアであるこの作品にはちょうど良い大きさの柄の生地が選ばれ、緒締や金具も適したサイズの一般品であつてゐる。

返信用シート

「新収蔵ミニチュア展 名人小林礫斎を支えた二人の中田」画像希望
たばこと塩の博物館 広報担当 裊地宛

FAX : 03-3622-8807

E-mail : horochi@tsmuseum.jp

「新収蔵ミニチュア展」プレスリリースに掲載している画像26点を本展を紹介いただく広報素材としてご提供します。必要事項をご記入のうえ、FAXかメールでご返送いただければ、ご希望の画像(jpeg)をメールでお送りします。

サイズは、縦×横×高さ(厚み)の順で記載しています。掲載にあたって、サイズ、作者の記載の有無はお任せします。

チェック	画像No	キャプション・クレジット
☐	Photo_01	長板揃物 長板:4.64×9.84×0.27cm
☐	Photo_02	中田兄弟商会店舗外観
☐	Photo_03	葵散し螺鈿蒔絵たばこ盆 16.9×31.5×25.6cm
☐	Photo_04	売立目録『もくろく』(中田家所蔵品入札) 東京美術倶楽部 昭和3年(1928)
☐	Photo_05	『中松庵藤翁蒐集竝鑑製 織巧美術品目録』昭和15年(1940)刊行
☐	Photo_06	道具箱 外箱の蓋:14×11.6cm
☐	Photo_07	掛花生 銘 空蟬 本体:φ1.03×2.25cm
☐	Photo_08	甘鯛香合 2.31×6.46×1.5cm
☐	Photo_09	植木棚(紀州徳川家伝来) 3.88×11.48×13.3cm
☐	Photo_10	唐木提筆筥 1.37×1.5×1.27cm 作:矩曲 金具:村上定吉
☐	Photo_11	小倉山蒔絵硯箱 5.3×4.2×1.33cm 蒔絵:今泉成之 水滴:村上定吉 彫金:小林盛良
☐	Photo_12	人形 後列右端の人形:5.7×5.74cm
☐	Photo_13	交り金阿古陀香炉 φ2.3×1.77cm 作:村上定吉 彫:小林盛良
☐	Photo_14	印籠 左端の印籠:2.52×2.16cm
☐	Photo_15	机硯箱揃 机:1.72×3.61×1.28cm 硯箱:1.36×0.86×0.32cm 作:小林礫斎 蒔絵:今泉成之
☐	Photo_16	瀬戸物揃(紀州徳川家伝来) 22.9×34.7cm
☐	Photo_17	切子揃(紀州徳川家伝来) 17.8×34.7cm
☐	Photo_18	山内容堂画 閑翁図 個人蔵
☐	Photo_19	切手コレクション
☐	Photo_20	嵯峨人形 ケース:1.83×2.43×2.93cm
☐	Photo_21	象牙筆筥 左の筆筥:0.84×0.55×0.75cm 作:小林礫斎 彫刻:浅野墨谷
☐	Photo_22	つとひ 2.53×6.23cm
☐	Photo_23	「集第三号」 箱:2.57×3.37 cm
☐	Photo_24	實の目録
☐	Photo_25	籠売り 高さ(大)5.5cm 高さ(小)5.4cm
☐	Photo_26	銀更紗たばこ入れ 袋:2.76×4.54×1.76cm 筒:胡麻竹 緒締:珊瑚 前金具:硯に墨

貴社名 :	ご担当者名 :
ご連絡先 TEL: FAX:	e-mail :
媒体名 :	掲載予定日(号):